

2020年6月22日

住友生命保険相互会社

国際金融公社が発行するソーシャルボンドへの投資について

～新型コロナウイルス感染症対策を含む開発目標への貢献～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博、以下「住友生命」）は、世界銀行グループの国際金融公社（International Finance Corporation）が発行するソーシャルボンドへの投資（投資額約72億円）を決定しました。

国際金融公社は、開発途上国の民間セクター支援に特化した世界最大規模の国際開発金融機関であり、開発途上国の民間セクターへの投融資、国際金融市場での資金調達等を通じて開発途上国が持続可能な成長を実現できるよう支援しています。

国際金融公社がソーシャルボンドの発行を通じて調達した資金は、新型コロナウイルスの影響を受けた国を含む開発途上国において、必要なサービスを受けられない人々を受益者とするプロジェクトに充てられます。



©IFC

今年3月、国際金融公社は、新型コロナウイルスの拡大による景気低迷の影響を受ける開発途上国の民間企業を支援するために、80億米ドルの新型コロナウイルス対策関連の融資枠を設定しました。国際金融公社のソーシャルボンドは、ソーシャルボンド原則を遵守し、その調達資金は持続可能な開発目標「SDGs」の達成に資するものであり、本債券の資金用途には、新型コロナウイルスの影響下にある開発途上国におけるプロジェクトも含まれます。

今回の投資は、新型コロナウイルス対策の支援に加えて、SDGsの実現に貢献することに住友生命が賛同および支援を表明したことで実現しました。

<投資概要>

発行体：国際金融公社（S&P 格付：AAA、Moody's 格付：Aaa）

金額：1億豪ドル（約72億円）

年限：約15年

住友生命は、「社会になくてはならない保険会社」の実現を目指し、事業活動を通じたSDGsの達成に向けた取組みを進めています。また、ESG投融資をその主要な取組みの1つとして位置づけ、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、ESG投融資に取り組んでおり、本債券への投資は、その一環として行うものです。

<「スミセイ中期経営計画 2022」全体像>



今後も、ESG投融資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでまいります。

以上